

●オンライン座談会



大島丈志



かわしま



しろたどもこ



土居安子

子どもの文学 2022 をふりかえる

～絵本から児童文庫まで～

大島丈志・川嶋智美・代田知子・土居安子

奥山 恵 (司会・編集部)

(2023. 2. 7)

——本誌五・六月号は、例年子ども文学の一年をふりかえる特集ですが、本日は、その「総論」の部分と、ジャンル別の「児童文庫」の部分と合わせた座談会ということと、普段から読者にも近い図書館や学校などで活動されていらっしゃる四人の方々にお集まりいただきました。あらかじめ二〇二二年で印象に残った作品をあげていただきまして、読み合って、本日を迎えています。後半では、「児童文庫」についても少し深く考えてみたいという編集部の思いもあり、過去にも「児童文庫」の年度回顧を書いていた大島さんと川嶋さんには、「児童文庫」を中心にリストを出していただきましたので、のちほど触れていきたいと思っています。

では、さっそくですけれども、自己紹介もかねて、昨年の印象的なできごとをひとつずつお願いします。まずは代田さん。

代田 はい。四〇年くらい三芳町の町立図書館に勤めており、館長時代も、読みかかせやブックトーク、赤ちゃんのブックスタートもやりました。去年は、もうウイズコロナで行事も普通にやってい